別18
13

鐸舎歌會式

全

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』 請求記号 本別18-13

ガラス使用

鐸舎歌會式

全

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13

ガラス使用

(911.106
Ki 131n)

国立国会図書館蔵書

国立国会
3111.27
図書館

52821

鐸舎哥會式

一 吾等の式會をおこなふ

たのひてよりおもふところ

を告ぐるてふ古ふるまひを

宣住あるひとうちを以舎

志ひて交りをむすぶ人その

ひとこゝろもいはる

ゝをもちそこはゝ吾ひと

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13　　ガラス使用

志ゐつゝ一ぢやう懐紙よこすちやうを書きこれを
よりて又探り探りて」をりなとしよの名目をかく
はゐてをくてほよろこばせ給ふ事おほし一かまき世よりく
すよりもみそひつゝんのそよろこぶ事おほし
世よき聖人ぐちこそ高きをなき物ひそ

一民間好事といつゝもこれをくの礼儀にかゝる礼す
へうゝんまして貧ひよこゝろさしの事のほどを思ひ
てやこゝろさしを起居約むかゝるゝんを用ゐ

一元て今年いそやかきことのほかに増りよ司を出さん
司重も悟て在市勿静なるんするを打つ重一
当在業中小侍の冨さみなき外より司を加け
らるゝようふさきよりて在ひとをえらぐも
あるの形を又今そむかよ汨するものおまさり
たのわやゝ言いてさてんのひるあんかよかるをも
ほかゝんあほいこゝろまゐるふはやさ男ひなとゝ
再ふはもりていふるさ又ほりやまて世の中乃

一　新前のかうはき到在の評定
　　すよりてたゝいかゝうち定めう
　　さたゝとゝなと書ゝいたるあるもそに時乃
　　よろしきほひてゝそのうゝしく
一　古のはゝめたる事ゝも皆よりとゝ
　　ゝをゝもより加わこゝ重のたゝてゝ
　　今世流例ゝはかゝとあわゝゝ

　　んよかをてみうゝさゝゝうゝを
　　ゝ無ゝゝ
一　おゝゝをかゝゝ無門ゝひの人ゝをゝ
　　はあゝひたゝすゝをゝうゝゝこゝもゝ
　　はゝあゝをゝてなひゝうゝなり時ゝゝゝもわ
　　のほゝのゝゝゝあゝゝゝ

天保七年正月廿九日　為房

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号　本別18-13
ガラス使用

哥會次第

先懐紙を懐ろして席よりの後
兄用の服を其儘にて礼服たるべし同敷
あるの家にて會せる先約合の席まで連れ立合せ
おのおの挨拶葉間して會席へ入るべし
同様なる所にて會せる席なれ共
前人をおのおの挨拶おのおの
席中のなす所たるを忘れ

次に各自雑談をおし止めて発句
を出懐中して題を出すべし
次に執事文台を持ち来り其の
不参人の懐紙と文台のよこたわ
なるべし（但不参懐紙二三人ある時は
多くある内より取出文台の上へ置
下座の）執事即ち御人の中央へ文台を据其懐紙を
のべ懐中して文台をなでてのち座
てあを文台をなでてのべ

の不参懐紙を別に取てそ
おもて付にて置べし（但し）
文台の向ふたたのうち据るをそん令して用意也其
たる執事書席より筆を
次第人へ進て懐紙を文台より置
き終て元座へ戻る
書座の人先懐帋を懐中より取出少し下座の
方へ向ひ各名乗て風をそよめ
こゝをたゝみて上をそり

いつわり給ふなかれ　四つそもそもこれ　座を起て静まりあるを文箱乃
少しこゝろもとなくて懐紙
みつぎ参りて文箱の
折目を文箱の縁より
新米なれば　起て座
より
次より執事　探題をお出して

次ニ執事重紙料紙ヲ持出ル上席ノ前ニ立ツ
重紙ヲ受ケ一紙ヲ定テ次ノ人ニ
与ヘ一紙ヲ配リ畢ヘ――料紙上席ノ前ニ持出ル
重紙ノ如ヨリテ受ケ取リ次ノ上席ノ前ニ
立テ向ヘ――
次ノ上席ヨリ重紙ヲ受テ
先ノ如ノ料紙ヲ持出ル上席ノ前ニ立テ
一重ヲ重ネナカニ入テ
次席ノ人ニ向テ指出ス
次ノ人ニ向テ指出ス
ヨリテ下席ヘ出ス
ヨリテ下席ヘ出ス
ヨリテ下席ヘ

忘草つみ泳草は空に二枚法をよむ
む探又をつけておく
墨をすり懐紙よ記
を一ひらきつけて
よ始む
て回る
懐中
懐紙の折目
懐中に収め
次よ筆よ始む
左
筆あるもあり時
我い酒飯等
出る
次よ詠ず短冊よ認む
各出来
五よ相見合て席中
短冊お認免次第
懐中にて席より
其よ
筆
小相済
在中の様
大体同時
やう
懐紙
次
次
次
次

未席ふ迄へ一　五席め人そ
ゐ一句つゝ出る　其
十席まて二席目係りて次席の人
迄り十席の人五席の人口相まさ
次よ執事重規を召し
五席の人前まさ一出ることを
前なるを以へ一法て席中の
ふ字ふ引きりて始のごとく席を改へ一
次よ執事雑毎を集し
規矩ことを持出て上席より次第
人の前まさ一集め主税て
題ふ次第をふ一て座ふ
次ふ一講師文基の前よ進ことよりて懐紙をさゝ
執事ふ相答第一て上座の懐紙ふ下より
下座の懐紙のごとく重ね主税て講師の
前ふ一ふ字ふ一ふ字ふ一ふ字

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

文墨ことむ二首ありの時に先一紙の字をよ
手てよ薄師和のくくて文墨よおくく
かくくくか但傍尼女房児の信帰ぬ戦
よ把くく紙よ薄よくく
次よ薄師懐紙をよくくよ
くくよ次第よ文字をよくくよ中う
一紙中の赴をんのよくくえくくくあく薄師
まて性よんくて文墨よ色くく居りて脱し

んのたよを捺よ重ねき七のよに扇をぬき扣
て要の方よて懐紙の端作りの方を案て文字と
性よくくしうんむきく作向よ頭をするく

小声 八九ノ七引三十三コ六イ八七引
春日寄道祝トイヘルコトヲ。詠哥（ヨメルウタ ソノケテ） 小声 姓名

次の号よりハ端作り影をそよ二首音乃
懐紙も旧し但姓名ハよむ事勿論なり亦
一句ヲ切ることよくく

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13　ガラス使用

君をおもふ心の玉をみがきいり
ちはやぶる（切ル心モチニヲツクルナリ）
かへしてもむすぶ袖よりもるつゆは（スエノ声サニアカル調ヲコスベシ）
神のうけいれ給ふなみだ（初句ヘカサネテヨムベシ）　君をおもふ心

海神に心をもむけてぬさをおく
礼儀あつきは高貴人の禄に等しく
幣帛を二反もちゐ
懐紙も四枚をつかふ
次第の人数

を薄き紙にて一重ねにして
敬ひて一礼あつて一首よみ果て
を捧げ持ち文箱をうけとりて
陰陽師の座あるところにおく
二首以上の懐紙あるは一帖
斗ひて讀師へ渡し讀師文箱をおく
をへて初めのごとく
表のうへのごとくにして

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13
ガラス使用

もりて文墨などの懐紙を出だせり二首
以上の懐紙の時は一順ごとに早に次の懐紙を出だせり尤
執筆をもちひて清書よりは清書ごとに
執筆をもちひて清書よりは清書改めて文墨よ
り早く講師よりも上席の事故のごとく
（但名を記すもいろいろ
なりの事例なり）
なれど時宜よりは
ていろをもへ
おりてすべての懐紙のすべて重ぬるまで
かく講師よりおろし講師より
ふりかく文墨のごとく
講一巡して清書講師講師より
早く執筆より禮して

講師座より降る
次に清書講師前座より席を
清書講師座をたち前より
執筆をもちひて清書
前座一同に禮して
も席を起ち

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13　ガラス使用

立ちて薄師を招くへし　第一座師の弟子の座
礼して傍の座
に直るへし

次に濱師立ちて濱師を招く

濱師第一座師の弟子をして
帳紙の薄物又代りたるを
薄師第一座の分とよきあく

新米取りてこの分よりくをを第一毎に
のそれまで取りてを順よく回し取りて分れたを第

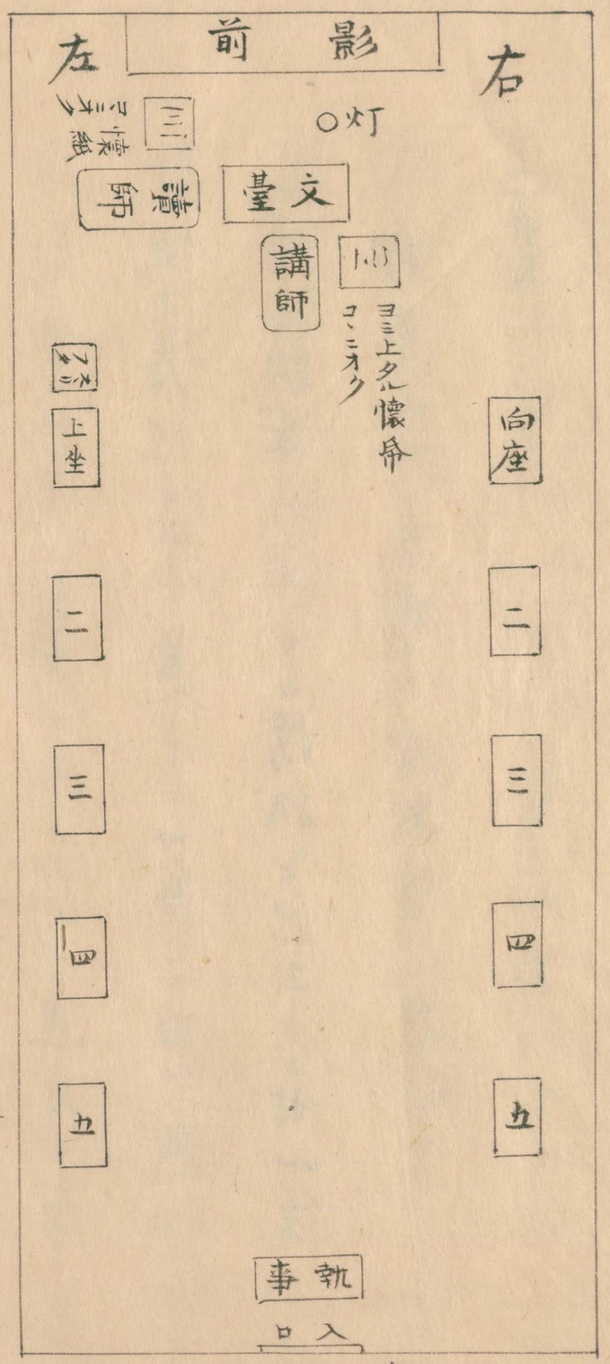
方よりて次第に第二座よりも左乃
至て雑毎をおなじくして第二座の
中程を元の座にて中をとりて第一座
よりへし初免礼をよりて
よりへし人次第にして薄毎座を回して
礼よし次第にして薄物を
次第よりて手伝よりて横帳紙のこと
なき様にて
第一座二座よりも加つくし
なき様にて
講了て更に濱師薄師を招く

但講師よりまで次第のごとく
まづ主（もとの下知新案よりるゝ事）はじめて
満座一同礼をなす
講師席より帰る
讀師席に着く
執文文箱収めてまづ持ち入る
先ず文箱のごとく懐紙の儀を乃ちて捧ぐ
つゞいて短冊を捧ぐ

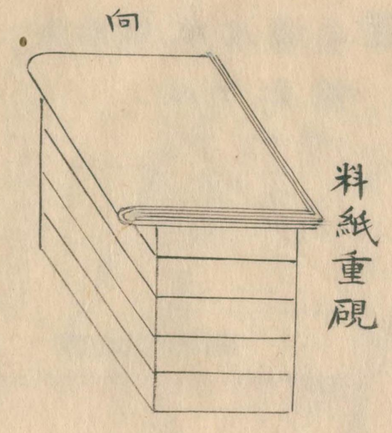
今ぞ思礼をなす
執文次席へ文箱を捧げ入りて懐紙経册を開て
収めて又元の座にもどりまづ主の近
又元座辺より一座を廻て熟視する
一一執事の開く懐紙を前一統へ按
抄あつて一集席も各執事へ授与す
已上
引退て次第の如く休息す

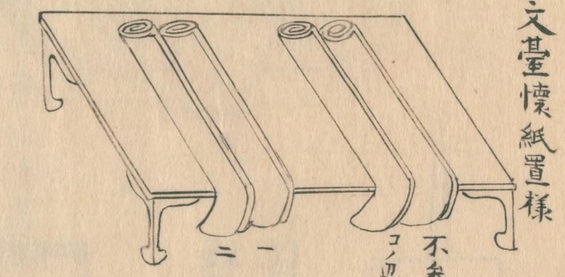
国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号　本別18-13　ガラス使用

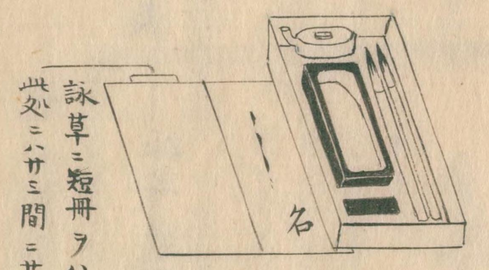
會席之圖



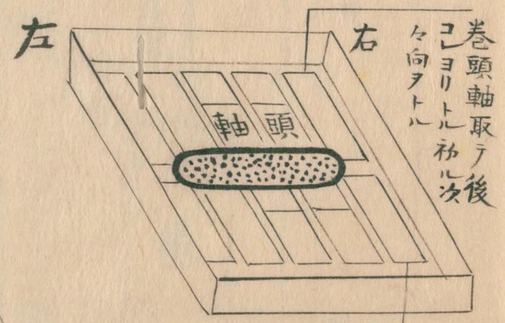
此圖會席正當ノ圖ヲ古例ヲ以テ記シ置ト雖モ順列ヲ變ジ便宜ナラシムル席ノ名目種々アリ時宜ヲ以テ斟酌シ左上ヨリ會式中上下左右ナラフル此圖ノ趣ヲ以テ席ノ定マリヲ考フルノ一助ニモ爲ス可キ而已

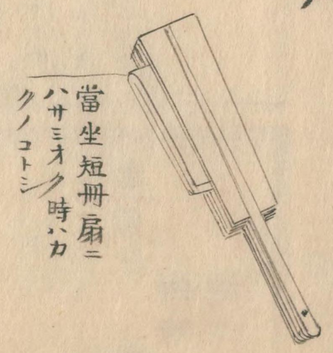






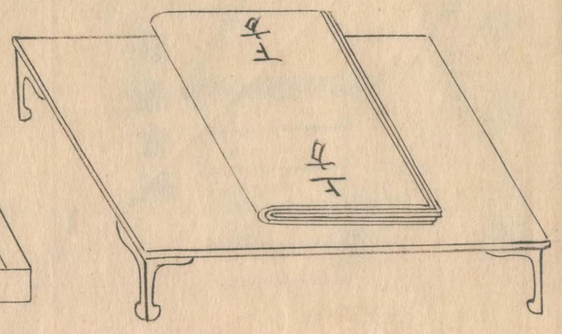
當座短冊組様



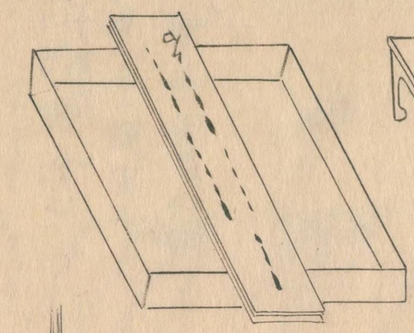


国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13　ガラス使用

講畢懐紙文臺上置圖

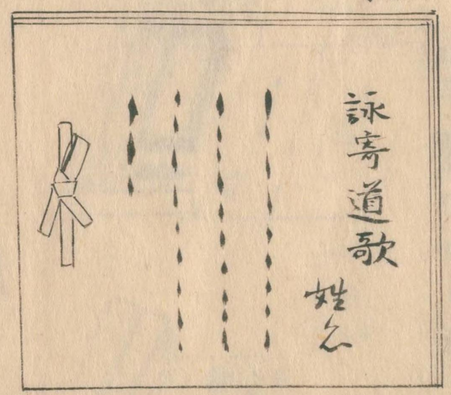


當座影前供圖

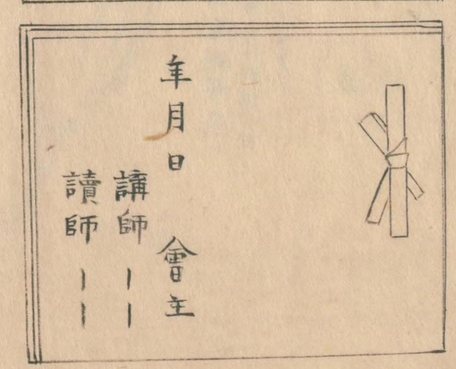


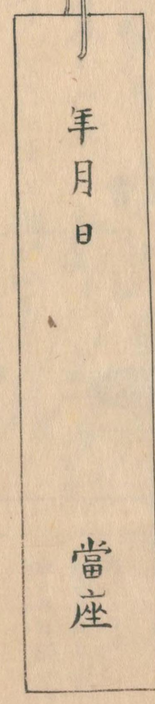
懐帋閉様

表

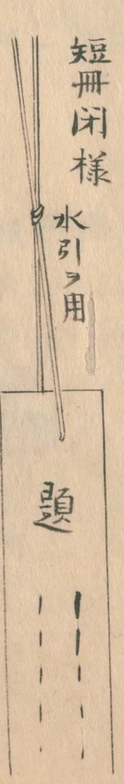


裏





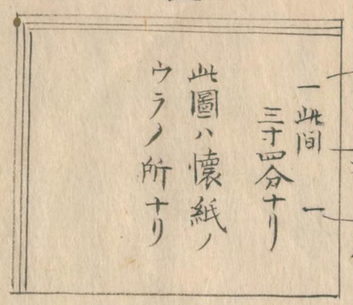
短冊閉様



懐帋を閉る穴をあけ閉ぢおて
なるやうみ紙の裏より
やうにふたの端より表に

よく小刀にて端を切よ
懐帋の奥
左の穴より向よ
ひねりこたる方
むすびそ
たのこ

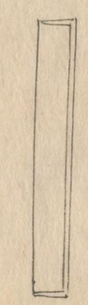
上

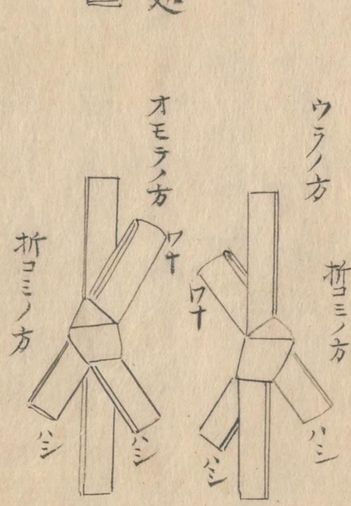


此両穴ヨリ紐ヲ通シテ表ニツラヌクこ

閉紙折ヨミノ圖

閉帋四ツニタヽミタル処

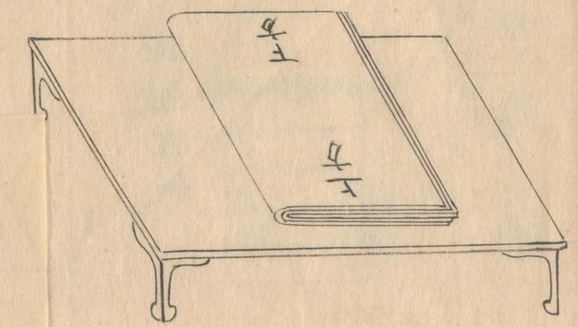




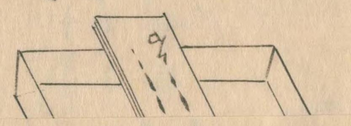
如此ムスビノウラヲ出スヘシ結ヒヤウ表ノ通リムスビ十リ

国立国会図書館　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号 本別18-13　ガラス使用

講畢懐紙文臺上置圖



當座影前供圖



懐帋閉様

表

詠寄道歌

姓名

裏

年月日　會主

講師

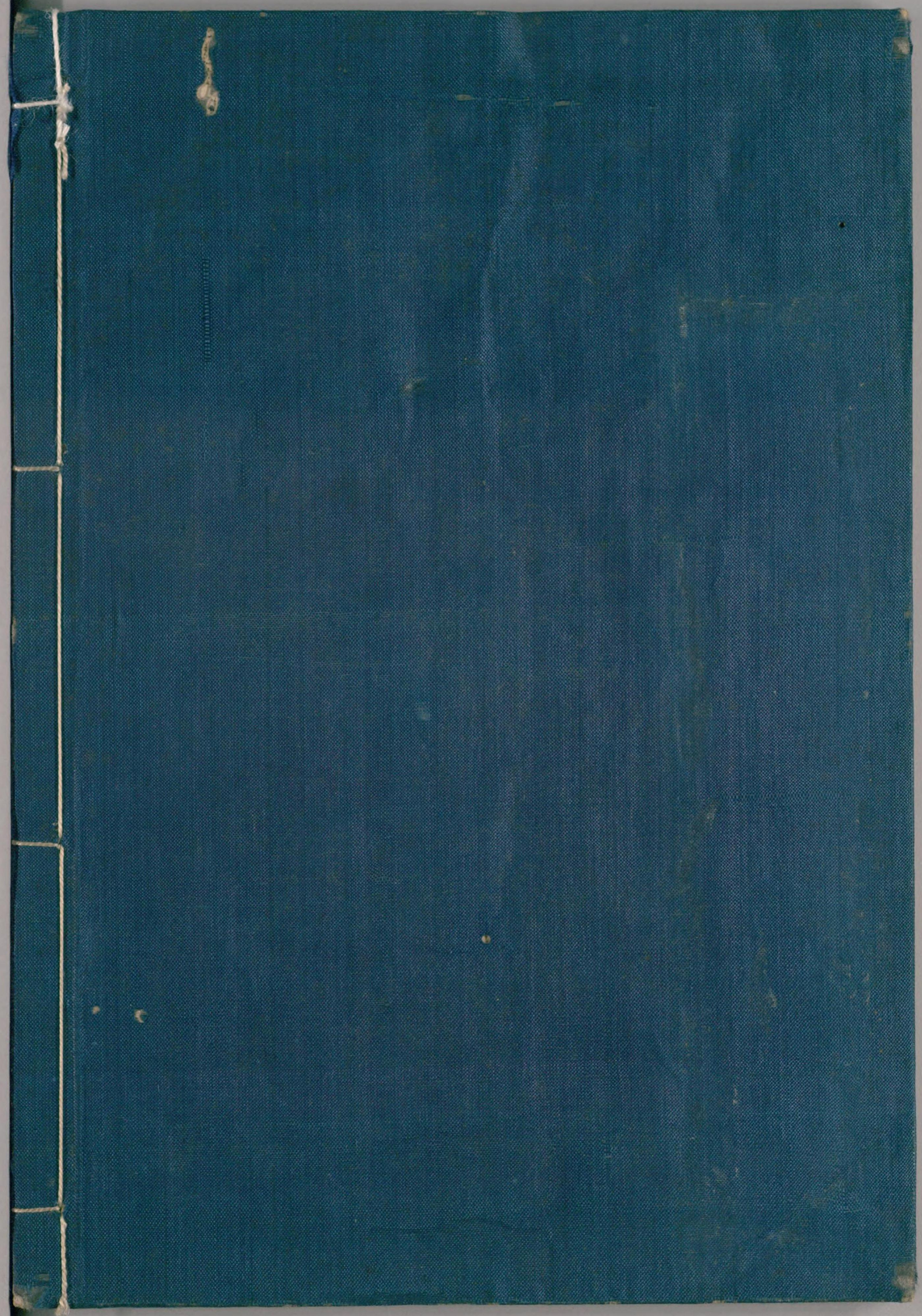
讀師

當座

懐紙を閉ぢ一懐紙の下と奥とを掬く中ほどを穴をあけ閉紙を懐帋を幅二寸五歩上下よ小刀にて它とおして出すたくさんを二筋こうらいこよりなるやうふ考じまし結て結目のうしろみかへ紙の裏おもてより引通して表にて結もしやうふかたの端おもてより引通して紙の裏おもてより引通して結目のうしろみかへ表にて結ひやうふをむすぶ結ひ目の奥おもて方にかたの端おもてより引通して結ひ

別18
13

大橋長廣



国立国会図書館　　タイトル『鐸舎歌会式』　請求記号　本別18-13

ガラス使用